

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、これから13番、武友クラブ、前田法弘の一般質問をさせていただきます。

今回、一般質問に先立ちまして通告いたしましたのは、大きなテーマとしては、新しいまちづくりについて。まちづくりは、やはり人づくりが大事であります。人なくしてはまちの形成はありません。成り立つものでもありません。そこに住んでいる人たちの安心・安全を考え、守っていくには議会と行政、この責任は重大であります。

昨日のニュース、ごらんになりましたでしょうか。全日空の胴体着陸であります。もう御存じであろうと思います。何度となくお昼の休み時間にニュースが流れておりました。あの胴体着陸をした全日空機、乗客乗員60名、午前8時50分ごろ、大阪発高知行き全日空「ボンバルディアDHC-8」、まあずっと型式になるわけですが、今里機長36歳、乗員4名が着陸前に前輪が出なくなり、2時間、高知空港沖合を旋回し、胴体着陸をするために燃料を消費して、10時54分、胴体着陸をした。まさにそのさまをテレビはしっかりとらえています。外から見る目には、ああ、よかった、よかった。けど、何であがんことがあったとやろうかという思いの方もいらっしゃるでしょう。私がまずそのときに感じたのは、あの機長の冷静沈着な行動力、そしてその判断力、すばらしいものであったと思います。

私も、飛行機は好きで、あちらこちらと見に行くわけですが、まさにあの型式の飛行機は、車輪の両翼にある、あの主脚は長うあります。ふだんの普通の飛行機よりかなり長いものです。あの飛行機がタッチダウンをすることで前輪を出そうとしました。それは日ごろ訓練を積み重ねている機長としては当然の、また、簡単とは言いませんが、大変な決死の思いであったと思います。しかし、あの2度目にランディングをしたとき、かなりの長い間水平にランディングをいたしました。あの機長の操縦力、すばらしいものであったと思う。しかし、その判断力、それとあわせて、そこにいた乗客乗員60名、機長と一体となったすばらしいランディング劇であったと。やはりこういうすばらしい機長が、そして乗客が一緒になって、この惨劇ともなろう事態を乗り越えていった。すばらしいことだったと思います。

ちなみに、この今里機長36歳、まさに樋渡市長と、――一つ違いかな。あわせまして、このようなことを思わせたことがもう一つあります。

12日の夜6時、議員の皆様は御存じであります。武雄市の文化会館において、武雄市消防団の主催でありますミュージカル「地震力ミナリ火事オヤジ」、皆さんごらんになったと思います。たくさんの市民の方々もごらんになったようであります。大盛会で何よりでございました。ミュージカルのようなものは、なかなか皆さんには、私も含めてなじみが深くはないわけですが、あの舞台狭しと歌い踊り、舞うその姿は、まさに躍動する芸術であり、深い感動を覚えたのであります。この感動は、決して私一人ではなかったと思います。見ていてもそうであります。役者はもっとであったと思います。

先日のミュージカルをごらんになった方が、終わってから帰り道におっしゃいました。その方は日ごろ民謡を踊り、練習をされております。ふだんは発表する場もなく、年に一度の公民館祭りであり、そのようなところで――あの公民館祭りというのは、武雄の場合、文化会館の大ホールであります。御自分では、今まで大ホールの舞台は結構広いもので、10人ぐらいで踊っていても、端っこぐらいはちょこっと間違えてもさほど目立たないと思っていたそうです。ところが、あの舞台を見て、センターで踊っている人以上に激しく動き、その役に徹した動きをセンター以上に自分には見えた。「私もまだまだ頑張らんばいかな」とおっしゃいました。週に一、二度の練習でも、年をとっているから、体とか舞台に出て踊った人が頑張ると言ってくれたのだから私は、思いました、ミュージカルと民謡、この違いはあっても、これは主役一人ででき上がるものではない。主役以上にわきで動いている人、わきで踊っている人、芝居の流れをしっかりとつかみ、主役と一緒にやってでき上がる。そして、見ているたくさんの人に感動、喜び、これを与えることができるのです。

武雄市政も同じです。幸い市長は、日ごろから自分たちと議会は車の両輪であり、どちらが間違っても市政運営はできない。お互いに力を合わせて頑張りましょうと言っていたいております。先日のミュージカル、それ以上にまたすばらしい夢の実現に向かって頑張っていきたいと思います。

さて、今回の一般質問であります。

経済活性化、2007年高校総体、景観問題、男女共同参画、学校問題について、以上の事柄につきまして、市長、教育長にお尋ねをしてみたいと思います。

我が国の経済は、景気がようやく明るさを増しつつあると言われる中、今後、さらに進展する大きな構造変化を乗り越え、国を挙げて健全で持続的な成長を図っていかなければなりません。そのための重要課題の一つが地域経済、地域社会を活性化させることであります。

地域経済や中小企業の声からは依然として景気回復の感は見られません。まだまだ厳しい経営が続いております。大都市と地方、大企業と中小企業の格差、また、小規模事業者にとってはまだまだ遠いのが現実であります。

そこで今回は、産業全体の現状と対策、そして、今後どのような方向に進んでいくのかについてお伺いをします。

耕作放棄地の増加、耕作面積の減少、農業従事者の高齢化など、さまざまな農業問題が深刻化し、産業としての農業が衰退している今、武雄市における現状はいかがでしょうか。

また、集落営農組織のこれからの育成と今後、そしてまた、地産地消の現状と今後の推進について。具体的なデータがありましたらお示しいただきながらお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

おはようございます。お答えをいたします。

まず、地産地消の現状と今後の推進についてお答えをいたします。

現在、武雄市内で農産物の直売所は、愛情野菜直売所、それから黒髪のを初めといたしまして、直売所、インショップなど合計で14カ所ございます。それと、農産物の加工所が12カ所ありまして、加工所では、まんじゅう、漬物、コンニャク等、多くの加工品が販売をされて、地産地消につながっていると思っております。

それから、地産地消の推進のために、現在、食と農の絆づくりプロジェクトといたしまして、旅館等の消費者や学校、保育所の給食を含めた連携づくりを進めておりまして、消費拡大を推進していきたいということで考えております。

それから、集落営農組織の現状でございますけれども、議員おっしゃるとおり、現在、耕作農地の崩壊、それから後継者の減少ということで、集落営農組織をつくっているわけですが、担い手となります集落営農組織は、現在45組織が設立をされておりまして、研修会等によりまして、組織の充実を図りながら、経営安定と法人化への取り組みを促進、支援することにいたしております。

現在、担い手の育成を総合的に支援する母体となる組織づくりを行っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

その法人化へ向けての取り組みですね、促進支援をしていくという、支援の方法としてはどういう方法でされるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

集落営農組織の法人化への支援の方法でございますが、ＪＡとタイアップをいたしまして、さっき申しましたように、研修会等を開催しながら、また組織づくり、その集落営農の育成を総合的に支援する母体となる組織をつくって、それによって支援をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

その母体づくりと、その母体というのが、先ほどおっしゃった45の組織から成ってくるものですね。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

その45の組織、それとあとＪＡとか市とか、そういう関係団体で組織するものでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

こういう資料をいただきました。「新たな経営安定対策の導入」、ですから、こういう趣旨に沿って進めていかれるんだろうと思います。

それともう一つですけれども、その地産地消の方ですが、その地産地消というのは、市長はいつも地産地消の推進をしていかななくてはいけないということをおっしゃっておりますが、その地産地消、やはり今おっしゃいましたのは、地産の部分でのいろんなことをおっしゃったかと思いますが、その地産があって、そして地消があって、地元でつくったものを地元で消費する。これが、先ほども具体的にと言いましたが、量的にどれだけの地産、そしてどれだけの地消があれば、その地産地消というのは進んだことになるのか、向上したことになるのか、武雄の場合ですね。そういうデータはありませんか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

そういうデータはございません。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

地産地消を進める、いろんな場合、何でも一緒でしょうけれども、きょう質問する中でも、どれだけのものが、要するに目標値というかな、そういうものがやはりある程度は必要なんじゃないかなと思うわけです。ないわけですから、どの程度のことを目安に頑張って、それぞれが農業、またそういう農業副産物に精を出していければよいのか。また、どうしてもどこがどういうふうな規模で使っていけばよいのか。そういったところの数値も出ないのであれば、なかなかこれからは難しいんじゃないかと思います。

農業を取り上げましたのは、いろんな形で農業が変わってきて、そして、少しでも農業従事者にとって夢のある農業にしていこうためになさっている事業だと思います。やはり食料は

国の根幹であります。そういう意味では、農業に従事する方たちにとっても、それなりに生産性の高い、いつも市長おっしゃっていただいています。ブランドづくりをして、それを押し進めていく、これも地産地消につながっていくというふうにもおっしゃっているかと思います。

ですから、そういう希望の持てるような農業政策といいますか、地産地消を含めて、そういうことが必要ではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

議員が持っている資料は、多分これだと思いますけれども、この冒頭のところに「価格政策から所得政策へ」ということに関しては、私もこれは大賛成です。昔、私は兼業農家でミカンばつくりよったですね。そのときに、なしうちのおやじとかじいさんはミカンばつくりよるやろうかて、幼心に思いよったわけです。なぜならば、だいでんつくりよるわけですね。しかも、ミカンつくっても、うち裏山に捨てよったわけですよ、余って。あの腐ったミカンで、私しばらくミカンば食べ切らんやった、あのにおいで。あのときの私の原体験が、なぜ農業経営者の皆さんたちが同じものをつくるんだろうかと。商売をやられている方、あるいは工業をやられている方というのは、必ず人と違うとばつくるわけですね。だから、なぜ人と違うのをつくらないんだろうかというのが私の原体験で、私の農業政策の根幹にあります。

そういう意味で、ただ、そればそがん言いよっても一步も進まんと思ひまして、私は一つの提案として、レモングラスの栽培を提唱し、その活用方策について、議会でも小池議員の質問で示したところでもありますし、今、いろんな旅館組合とか、いろんなところで私はお話をさせていただいているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

確かに市長は、レモングラスということで、いろんな新聞などにも報道をされていますし、この議会でも何度となく現物まで持ってきて、そういう説明もされております。

私も、要するに、その今おっしゃった工業、商業すべてにおいて言えることですが、やはりこれも商いである。農業者も食べていかなばいかなわけですよ。食べていけんから、いろんな補助金だ何だ、もちろん国策ですから、補助金は必要な面もあるかもわかりませんが、そういう意味でも自立した農業経営ができていかないことには、本当に食料難になったときに困るのは消費者ですよ。そして、兼業農家じゃないんですよ、一番責任を言われるのは専業農家、専らその農業で頑張っている方、そういう方たちにも責任が回ってくる。そういう

ことも考えなくてはいけないと思うので、そういう生産性の高い、いわゆる希望の持てる農業づくりといたしますか、農業政策を続けていってほしい。ぜひ実現してほしい。そのためにも、先ほど言いました地産地消、このことは大いに進めていかななくてはならないし、進めていくためには、やはりそこにはある程度の数値目標というものがやっぱり必要なんじゃないかなと思うんです。

そこでもう一つ、これは私もはてなと思ったんですね。例のかんぼの宿であります。あのかんぼの宿を武雄市が今公募をしています。募集ですかね、あのかんぼの宿を売却する。その売却をする基本的事項の中に、その４番目のところに、その他の条件として、１番目に、食材については、地元からの購入に配慮することと書いてあります。２番目に、従業員については、地元からの採用に配慮すること。あとはるる手続等のことでありますのでいいわけですが、この「配慮すること」という言葉には、何ら強制権はないといえますか、若干そういうふうな思いがするわけです。

あそこ養老院がありましたね、向陽園。あの向陽園のときも地元から従来とっていたわけですね。ところが、あの会社になって、「地元購入に配慮すること」という文言で、確かに先方は地元で配慮をされて、そして地元業者さんと呼んで、その査定にかけられて、冷凍車がないとか、こちらの要求する食材に合わないとか、そういう理由で、地元の業者さん、生産者さんは、余り入れていないのじゃないかなと。余りですかね、ほとんどですかね。その数字は私もつかんでいませんので、余り強くは言えないかも知れませんが、そういうことで「配慮すること」という文言が、（「排除」と呼ぶ者あり）そのとおり、排除になった感がある。そのときも議会では、なぜ、なぜということを言われておりました。地産地消を推し進める中で、ここの購入に配慮することなく、ここを例えば、何割かを地元から、地元産を使用するとか、そういう条件はつけられなかったのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

あくまでもどうでしょうか、今回のかんぼの宿を後継して経営するところは、民間100%の資本であります。そこに、あるところがこれ使いなさいとかというのは、それは何に基づいて言うのか。それは私は、基本的に今の法行政をやる上で不可能だというふうに思っております。これもし強制して3割というふうに言ったときに、どっちがその責任をとらねばいかんかといったら、これはちょっと今の民主社会においては、それは無理な話であります。

それともう一つ、向陽園の話が出ました。これと向陽園と今回のかんぼの宿は分けて考えるべきだというふうに思っております。あくまでも向陽園の場合は、いわゆる公共サービスをしよるわけですね、ある意味だと。そこに対しては私も、名前は上げませんけれども、あ

る議員さんから、どうも使いよらんごたるばいということで話がありましたので、即座に経営者に対して、私と古賀副市長で電話をして改善の要求をしたところであります。

そういう意味で、これ分けてちょっと考えていただかないと、ちょっと議論が誤るのではないかと。

それともう一つは、配慮と排除が一緒になるというのは、私はちょっと質問を受けていていかなものかと思いました。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

確かに、何というんですか、それは違うかも知れません。しかし、その一方では、商業、またいろんな意味での経済の活性化といいますか、そういうふうなものを推し進める中で、これは考えてもよかったっちゃなかかなというふうに思うわけですよ。ですから、またこういう、そのかんぽの宿を購入する、まだ決まっていないわけですから、ぜひここを強く言うておいていただきたい。やはり武雄市内の生産者、また、そういうものを取り扱うところが、私もかわゆうございますし、市長もかわいいと思います。ぜひそういうことを御配慮いただきたいと思います。

次に行きます。次は工業であります。地元の企業と地元外企業の具体的な現状ということでお尋ねをするようにしております。

そういうふうなところで、今、地元企業と地元外企業の具体的な数字がありますでしょうか。全体の工業統計みたいなやつはないですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

議員さんおっしゃる地元の企業と地元外の企業の製品出荷額だと思いますけれどもーがないかということですが、これは地元と地元外別々の統計というのはございません。一緒になった統計の数字はございます。それをちょっと申し上げたいと思います。

まず、製造業の数字でございますけれども、平成15年で合わせまして約587億円の製造出荷額というふうになっております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ここ分けてと、私さっきも言ったかも知れません。また、この分けてというのは、要するに、地元の企業がどれだけ武雄市に対して貢献をしているのか、その地元外の企業が

どれだけ武雄市に対して貢献をしているのか、その個店個店の数字でなくて、その大枠でも、その全体じゃなくて、地元と地元外という、そういう枠でのとらえ方はできないのかということをお尋ねしたわけです。というのは、やはり先ほどから何度も言いますが、それを材料に頑張ろうとか、そういう気概につながっていくんじゃないかなと。そういう数字があることで、実際の武雄の企業がどの程度頑張っているのかという数字がわかってくるんじゃないかなと思うわけです。やはり市内企業には頑張って税収を少しでもふやしてもらいたいわけであります。誘致企業がどれだけの面で市や市民に貢献しているのか。また、中には、そういうふうな企業からは税金は入ってきよらんとやなかやというふうに聞かれることもあります。そういう心配している方もありますので、この際、そのことについてお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えをいたします。

製造業におきましては、税金の面では固定資産税、それから法人であった場合は法人税、それと、従業員がいらっしゃる場合には個人市民税、こういう税金は入ってきております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

それで、市に対する貢献度というのは、今のお答えですかね。――はい、わかりました。

それで、誘致企業に対しては、いろんな面で優遇措置をとっておられます。そういう優遇措置で税収増にいつからはね返ってくるのか。要するに來てください、そのためにはこういうふうにします、こういうことを免除しますと。けど、そういう免除をすることで、果たして武雄市としては直接的に影響することはないのか、そういうことでお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

誘致企業につきましては、優遇措置がございまして、固定資産税の3年分を納付によりまして還付をすることにいたしております。そういうことで、3年間ににつきましては、税収面の収入見込みはございませんけれども、4年目からは恒常的に固定資産の増収というのが見込めるということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

そういうふうな面で、確かに税収もある。また、いろんな面で、そういう企業が来ることで、もちろんそういう企業ですから、当然投資もされているわけで、そう簡単に出ていったりすることはないわけですから、それ以上に地元の企業にもやはり頑張ってもらいたいわけですね。

そういうことで、頑張ってもらうことで税収をふやしていかなくてはいけないと思うわけですが、そのためには、今以上の支援策があってもいいんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。そういう支援策はありますか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

地場の企業を含めました企業への支援策といたしましては、設備投資のための資金、それから経常的な経費に充てるための融資金の貸し付け、それと佐賀県地域産業支援センターなどとの連携によります技術、経営、資金面での支援などを行っていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

それでは、次に――建設業はいいですね。商業、これも工業と同じ質問であります。武雄市の商業部門での現状、また、地元商業と地元外商業のデータはありますか、年間の売り上げとか雇用形態とか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

これも地元の商業、それから外から入ってきたといいますか、大型店等の商店、この分につきまして、データでございますが、これも別々のデータというのはございません。それで、これも一緒になったデータでございます。商品の販売額が平成15年で約544億円ということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

私が言う雇用形態は。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

雇用形態につきましても、別々の雇用形態のデータはございません。そういうことで、雇用形態につきましては、さきの平野議員のときにもお答え申し上げましたけど、約75%が正規採用、あとの約25%ぐらいがパート等の非正規雇用ということになっております。

（196ページで訂正）

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

やはり、その75%の正社員、25%のパートさん、これも進出企業の中での正社員とパート・臨時の率、地元商業での雇用形態というのも違うと思うんですね。やはりそういうものも、先ほどの年間の売り上げとか、そういったものも別々の数値が、ポイントでもいいでしょうけれども、そういう数値があって、いろんな施策に反映されていくんじゃないかと思っています。

それで、地元企業、いわゆる進出大型店が、地元外企業ですね。どれだけ武雄市に貢献しているのか。地元企業がどれだけ頑張っているか。やはりそんなデータも必要じゃないかと思うんです。どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

地元の店舗、それから外から入ってくる大型店につきましても、もう入ってきますと地元の企業になるということでございますので、それは一緒に考えたいということで考えております。

それから、一つ訂正をいたしたいと思います。さきに雇用形態について、75%、25%と申しましたが、これは工業部門でございまして、商業部門につきましては、雇用形態については把握をいたしておりません。訂正しておわびいたします。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

きのう平野議員の方からも質問があったように、いかにパート・臨時の方たちを正社員としての扱いにしていくか。これはわずかかもしれませんが、金額的にはわずかかもしれませんが、幾らかでも税収といいますか、そういったものに貢献するのではないかと思うわけです。これは男女共同参画にも若干関係があると思います。後の方で聞きたいと思います。今後は、ますます地元商店には、特に北部の商店、大変に苦勞をかけていくわけです。

今、そういうふうな数字が把握できていない、もちろん武雄の市民の方たちも、それがわかっていない状態でありながらも、温泉通りでは下水道、松原では区画整理事業、現状はこうですから頑張ってください、一緒に頑張りましょうと言えるデータがやはり必要じゃないかと思います。

昨日、1番議員の方からも、このことは質問がございましたが、北部は大変に厳しい現状であります。空き店舗対策とかも実施されておりますが、やはり現状ははかばかしくないのが現状であると思います。この際、区画整理地区内のみならず、下水道工事期間中、一時的にでも別の場所に移ってもらって、継続をして営業ができる状況をつくれないのでしょうか。または思い切って、景観条例も平成20年にできるようになっておりますので、景観の縛りがあって、そこではどうしても営業がやりづらいという業種にはどこかほかの場所をあ�せんするとか、または、その移設のための支援をするとか、そういう方法を考えることはできないでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

おはようございます。お答え申し上げたいと思います。

一時的に工事等をするところの商業者の皆さん方を他の場所に移して、あとは商業ゾーンを設置できないかというふうなことでございますけれども、今の現状の中では、これは非常に難しく、できないというふうに思っております。

それから、特殊な業種の皆さん方を、また別のところに集めて、そちらの方に移っていただくというふうなことについても、今の現状では難しいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

できないできない、何でもできない。あのね、やっぱり厳しかですよ。きのうも1番議員おっしゃってました。大変に厳しいのが現状ですよ。そういう中で、少しでも息長く武雄で商売を続けていきたい。そして、そういう中で武雄に溶け込んで頑張っていこうという方たちの支援をしないと、本当にあそこの区画整理の中で、何年間も待たされて、まだあと県道整備とか、そういうものを整えていくためには、まだまだかかりますよね。その間ずっと待たされるわけですよ。もてればいいですよ、もてれば。しかし、今はもう弱体化しているんですよ。あの通りに残りたいという、いろんなアンケートをされていると思いますが、やはり少ないでしょう。そういう少ない中で、なおかつその少ない方たちにもっと続けてもらうためには、もうちかっと何かそういう施策が欲しいかと思います。

次に、観光についてであります。

観光面でのがばい効果についてはどうなっておりますか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

がばいばあちゃんの取り組みで、武雄市の知名度、それからイメージがアップしております。こういう中で、ロケ地めぐりツアーの誘致活動を行ってきておりますけれども、旅行会社の反応は非常によくありまして、現在募集中も含わせると、旅行会社5社でロケ地めぐりツアーの造成がなされております。その結果、ロケ地めぐりツアーで武雄市を訪れた観光客は、1月から2月で約1,900名、それから3月以降募集をされている旅行会社は3社でございますが、これがすべて実施をされるということになりますと、約1万名程度の旅行客が武雄を訪れるということになります。

また、メインロケ地であります淀姫神社には、連日多くの人を訪れられておりますけれども、境内では地元の農産物や特産品の販売、またおもてなし等を行っていただいて活用をいただいているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと先ほどの御指摘と関連して、私からも補足答弁をさせていただきたいんですけれども、確かにがばいの観光効果で、議員の皆さんたちも体感でおわかりのとおり、バスはふえとるですね、恐ろしゅうやっぱり来よんさっですね。しかし、私に寄せられる声は、周辺の市、あるいは長崎県のある市、観光協会から、私に対するお礼の電話がかかってきます。なぜならば、がばいばあちゃんに来てもらって、お泊まりは自分たちと。私は当該市の市民栄誉賞でもいただきたい気分であります。どういうことか。せっかく量的にはふえよるわけですね。しかし、武雄の皆さんたちがほんなごてこれば自分たちのものにして、お金を落としてもらおうと。あるいは、おもてなしをしようとするお気持ち、お心が本当に今芽生えているかといったことについては、私は残念ながら疑問であります。

だから、さっきの商売の話も出ました。私は基本的に商売は、貝原益軒も言ったとおり、自主・自立が基本だと思っています。そこに行政が介入したら、昔のソ連とか中国になります。そういう意味で、今人がふえているところで、新たにこれは、いろんな苦悶とか苦労とかあるかもしれません。しかし、淀姫神社はごらんになったことあると思います。週末200人ぐらい来よんさるわけですね。買うとのなかけんおさい錢ばかりふえよるわけですよ。だから、例えばーいや、笑い事じゃなかとですよ。例えば、あそこでキュウリを売るとか、あそこやったらキュウリをみそ漬けしたら、1本200円かで売るっかもしれないわけですよ。

だから、そういうふうに、せっかく人の来よんさるところで、そういう商売を、チャレンジを私はしてほしいかと思います。その間に、私はそれに対する支援を惜しみなくやりたいと思っています。淀姫神社の神主さんにかけてやることもやります。あるいは、警察にこういうことをおくとすると大体ハードルの高っかわけですね。しかし、私の方から声をかけます。だから、そういう意味での支援はしますけれども、基本的に、なぜ今こういうチャンスが来ておるところに、ほかの市から私が感謝をされんばいかんとか、それは甚だ疑問でありますし、ぜひ議員もそういった面で、武雄にお金を落としてもらうという協力を、ぜひお声かけも、影響力の強かけんですね、お願いしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

確かにそうですよ、やはりお金を落としてもらうこと、それがすべてなんです。そういうことでがばいも進められたし、そのためのがばいに終わってはいかんです。そのがばい効果ならがばい効果を、そういう自主・自立をしようと、そういう場所でされている人たちにも何らかの手はないですかということを言っているわけですよ。自主・自立をしているというのは、私の言っているのは、そういう北部の商店街で頑張っていらっしゃる方たちのことです。確かに、そのがばいで、そういう場所で、いろんな観光客が来て、武雄は大変に目立って売れて――いや、確かに、ビデオリサーチで19.2%ですか、関東地区、この数字の19.2%という数字は私もわかります。本当に頑張った数字だな。けど、そういうものも、やはり何とかな、いろんな意味で武雄市民に享受をしていただきたいと、（「享受」と呼ぶ者あり）はい、分け与えてくださいという、そういう意味で言いました。

ですから、市長はいろんなところに行って、ビジネス効果等々について、新聞にもしょっちゅう出てくるように書かれております。この新聞ば見よったら――まあこれはいいですね。

そのがばい効果で、その人のつながり、人のつながりの効果といふかな、そういったものはどういうふうになっていますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今のところ、がばい戦略は、まあまあ当たっていると思います。もう率直に言って当たっていると。その理由は、普通口ケが終わる、あるいはドラマが終わったら、それで大体終わるわけですね。「Dr.コトー」もそうやったと聞いております。あるいは、あの何でしたっけ、^{うみざる}海猿ですか、あれ^{かいろん}海猿と言うんですか。（「^{うみざる}海猿」と呼ぶ者あり）「海猿」もそれで終わったと。しかし、武雄に限っては、「武雄のがばいばあちゃん」が出現したわけですね。御歳上は90から、下の方でも61歳だったでしょうか。自分たちのものとして署名活動を行っ

たり、議員のお手元に資料もありますけれども、ポスターに積極的に出てもらったり、テレビも出ましたもんね、RKBとか。今TBSの方々が来とんさっですな。

そういう意味で、今までは泉ピン子さんが主役やった。しかし、今回は武雄市民のみならず、あのがばいばあちゃんが、自分たちが主役なんだということで、次の第2弾の署名活動で2万5,000人集まったらしかですね。これは議員にも御協力いただきました。2万5,000人集まったといったこととか、それをきっかけとして、あらゆる自分たちもやればできるんだと。自分たちが頑張らなければいかんということで、これこそ自主・自立なんですよ。それで、ネットワークが今広がっているというふうに私は考えております。

そういう意味で、私は本当にうれしかったのは、今までともすれば、何か武雄市長が目立ったりとか、あるいは、新聞には武雄市長、武雄市長てやっぱり出るわけですよ。それは私の本意ではなかったわけです。それは確かにうれしいです。しかし、きょう小林はんこ屋さんが西日本新聞に出ておったりとか、あるいは武雄の図書館が佐賀新聞に大きく扱われたりとか、私は本当に今すそ野が広がってきて、うれしい状況になっています。これも一つのがばい効果だというふうに私は考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

その7人のがばいばあちゃんですね、りりしいお姿が樋渡市長のプロデュースのポスターというんですかねーができております。

そのがばいばあちゃんの続編をということで、5万人を目標に署名活動をされていた。それで今2万5,000人。その第2弾の制作というのは、見通しはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

最初にお断りしなきゃいけないのは、私は制作者じゃありませんので、今、公的に言われていることを紹介したいというふうに思います。

まず、ドラマより映画の方が先になります。仮称ですけど、「佐賀のがばいばあちゃん2」ということで、島田洋七さんが監督をされてーこれはテレビでももうおっしゃっていますので、もう皆さんも御存じかもしれませんが、それで、武雄でロケをやりたいと。もう本当90%以上は武雄でロケをやりたいと。テレビドラマの場合は、室内、屋内は東京であつたわけですね。しかし、今回は、もう武雄でぜひ室内もつくってやりたいということを今言われております。

したがって、今の流れから言うと、映画の方が先、この前、島田洋七さんとお話したときも、ドラマは映画の後にドラマだと。しかも、例えば、1年に1本とか2年に1本とか、

寅さんのように、あるいは北の国からのように育てていきたいということを公的の場でもおっしゃられております。私もいいなというふうに思っております。

ただ、一つ私が断ったのは、連続テレビドラマ化をしたいという話があったんですね。これに対しては、ロケ地の負担、そして、これが一過性に終わる危険性、可能性があることから、これについては私は反対をしたところであります。（353ページで訂正）

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

私もそのがばいばあちゃん効果に異を唱えているわけではありません、決してね。決まった以上、そしてここまでやった以上は、やっている以上はとことんやって、武雄市の活性化のため、また、武雄市の経済復興のためにも少しでも役立ってもらいたいから、こういうふうないろんな質問をしていくわけであります。

そこで、がばいで出演したり参加をしたりした子供たち、これの教育的がばい効果というのはいかばかりであったでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

今回のロケにつきましては、校長会等でもいろいろと話が出てまいりました。これで、私どもとして6点だけ一応教育的効果としてあったんじゃないかならうかということでまとめてみました。

一つは、自己主張の機会になったんじゃないかと。要するに、あそこで何といたしますかね、エキストラのいろんなことで小演技をしていただかなきゃならなかったと。そういうところで、子供たちは自分というものをどう出そうかと、こういう機会にはなったんじゃないかと。

それから、ふるさとの再発見ですね、これは皆さん方どなたでも納得されるだろうと思います。

3番目が、役割分担の大切さ、1本のドラマをつくるのにたくさんの方々がいらっしゃると。そのたくさんの方々がそれぞれのポジションで、それぞれの役割を発揮しなければ、作品としてでき上がらないんだと、こういうことを子供たちは肌で感じたであろうと。

4番目が、これと似たようなことになりましようけれども、協力するということのすばらしさ、スタッフの皆さん方が朝早くから遅くまで、いろいろなミーティングを高めながらしていらっしゃるその姿、そういうことから協力するということのすばらしさ。

5番目は、打ち込むというすばらしさ、泉ピン子さんの演技に打ち込まれる姿、あるいは少年主人公の演技に打ち込む姿、こういうものは子供たちに大きく左右したであろうと。

最後が、自分たちもまちづくりの一つに参加ができた、子供なりに感じ取ってくれたの

ではなかろうかと、こういうふうに6点だけ我々は考えたわけでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

教育的にはすばらしい効果があったというふうなことでございます。

ちなみに、教育長にお伺いしますが、「がばい」って方言ですか。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

実は皆さん方、昭和57年発行の「ふるさと歴史散歩 武雄」というのがございます。ここに、武雄市を中心に周辺の方言集が実は記載をされているわけでございます。この中には、57年当時の「ふるさと歴史散歩」の中には「がばい」という言葉は出ておりません。しかし、がばいという方言が比較的新しいということで、いろいろと文化財担当の方にも調べていただきましたら、どうも昭和30年ごろから全県的な使いが始まったようだ、と、こういうふうな文化財の担当として、私の方に話が来ました。ですから、かなり新しいと。しかし、言葉は皆さん方も御存じのとおり、時代とともに変わっていくもの、このところを、この「がばい」というものを通して、改めて感じさせられたようなところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

私もそういうことであります。確かに、流行語ではないにしても、言葉というのはいろんな形で変遷をしていく。そして、それがいつの間にかその地方の言葉に変わっていく。歴史的にもそういうふうな形になっているようであります。

続きまして、外国人観光客の誘致についてお尋ねします。

最近、ゴルフ場でも台湾、韓国からのお客さんがふえているように思います。国においては、ビジット・ジャパン・キャンペーン等が展開され、県でも力を入れているようですが、武雄市での取り組みはどのように行われているかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

外国人観光客の取り組みでございますが、「佐賀のがばいばあちゃん」の効果を利用いたしましてやっております。外国で、特に台湾ではその「佐賀のがばいばあちゃん」効果で人気が高いということで、2月に台湾の旅行関係者が武雄を訪問されました。また、2月21日

から23日にかけては、県と連携をいたしまして、台湾市のデパートで観光地武雄の宣伝を行って、外国人観光客の誘致に努めたいということでしたしております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

台湾における観光のPRということで、資料もいただいています。これは県の事業だったですね。これに柄崎太鼓さんが一緒にというか、招聘されて行かれてあるようですが、その柄崎太鼓さんが行かれた費用は県から出されたんでしょうか。――済みません、時間が足りないんで努めてくれんですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

柄崎太鼓の台湾の費用でございますが、市の方から半額ということで、あと半額は柄崎太鼓さんの方で負担をいただいております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ふるさと創生人づくり・まちづくり補助金交付ですかね、これを使って行っておられるわけですね。県からは何も出ていない。大田副市長、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

経過を申しますと、私が県にいろいろな事業を武雄市でやれないかという相談をしておる中で、県の流通課の方から、実は台湾でこういう事業を、佐賀県フェアを考えていると。武雄市としても検討できないかという相談を受けました。その際、そのがばいばあちゃんの人気が台湾で物すごい勢いで上がっているということでしたので、ぜひ武雄を宣伝するとともに、「佐賀のがばいばあちゃん」の宣伝もしたいという提案をいたしました。その中で、向こうのデパートの方から、客の誘致策の一つとして、何か伝統芸能をやってもらえないかという相談を受けました。その際に、経費の面はどうかという相談を問かけしましたところ、それについては自己負担ということでございました。そういう条件で検討してくださいということでございました。私どもも武雄のPR、それからがばいばあちゃんのPRをしたいという思いがありましたので、市として対応できないのか検討しましたところ、国際交流事業の一環として、ふるさと何とか基金がありましたので、それを利用させていただいて、半額

補助ですけれども、それでも柄崎太鼓さん行っていただけますかという御提案を申し上げましたところ、海外公演は初めてだし取り組んでみたいということで、実現に至ったわけでございます。柄崎太鼓さんには非常に感謝しております。――正式名称が、武雄市ふるさと創生人づくり・まちづくり事業補助金ですね、失礼しました。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

いろんな事業がたくさんあって、覚え切れないでしょうけれども、ぜひ覚えておいてください。武雄にはそういう補助金制度があるんだ。県にもぜひそういうものがあればお使いいただけたんではないかなと思います。もちろん、武雄の宣伝になるわけですから、武雄もある程度の負担は必要でしょうけど、やっぱり行っていただく方に負担をさせるのは大変に厳しいなというふうに思いました。

どちらにしましても、大変盛大な模様が新聞にも載っておりますし、武雄テレビ、T C Vでも放送されていました。

それで、この外国人観光客誘致ですけれども、今後はどのようにして推し進めていかれるのかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

二つに分けて答弁をします。

一つは、公の我々の世界の話をします。これについては、まず台湾の方、あるいは中国の方、韓国の方と話していたときに、どうしてもやっぱり看板ですね、自分のところの言葉がないとやっぱり不安であるといったところで、例えば、これは国土交通省の話になるかもしれませんが、青字に白の「武雄」とかありますよね。あそこの下に入れることができないか、ちょっと私はそれは国交省には直接お話をしようというふうに思っております。

今、下関であるとか、あるいは中国人の方が多い静岡県が、今だんだんそういう形態になっておりますので、そういう例を引っ張りながら、来たときに自分の自国語が見えるという安心感、安定感を、観光客の皆さんたちにもぜひ享受をしてほしいというふうに思っております。

次をお願いします。やっぱり日本人が考えるのと、例えば、台湾の方が考えるのは全然違うわけですね。一番違いが出るのは宿泊です。今、これは一般的に申し上げますと、台湾の方が来たときに、1室4人という申し出ばしよるわけですね、いろんな観光客が。こがんところにはもう人来んですね。10年前やったら来ておったかもしれん。したがって、もう1室1人、あるいは1室2人までが限界だということを直接私も聞いておりますので、その辺で特に

旅行業者、旅館業者の方が、それをきちんと認識をしていただくということ。それと、諸外国から来たときに、日本人が泊まるごと高っか値段は取れんですね。それでもいいんだと、平日の場合は。そういうふうを意識転換をぜひしてほしいというふうに思っております。これがうまくいっているのが、私は嬉野だというふうに思っています。そういうことで、武雄の旅館の方々とかには、ぜひそれを御理解、御納得をしていただきたいと。

それと、今うまくいっているのは、センチュリーは割とうまくいっておるですね。これはなぜかといえば、もう自分でどんどん行きよんさるわけですね。だから、待つんではなくて、もう攻めていくんだと、そういう気持ちをぜひ持っていただきたいというふうにも思っております。それに対するいろんな情報提供であるとか、私が行った方がよければ、それは私が行ったりとか、そういう支援は惜しみなくやりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ぜひそういう支援もお願いしたいし、また、国ですか、県ですか、そういうふうな宿泊施設に対する支援費などはあったんじゃないかなと思うんですが、そこら辺は市長の方が詳しいでしょうから、国のそういうものも使いながら、ぜひ進めていていただきたいと思いますし、これはパンフレットですけれども、大変に外国語表記のパンフレットも今つくっていただいておりますけど、やはり市長見て思うでしょう、ちょっと違うなって。もう少し外国人にわかりやすい表記を、これも考えていただきたいと思います。

これまでも申し上げました、やはり今市長もおっしゃいました市民、またそういういろんな事業者、その人たちが一緒になって、こういういろんな事業に取り組んでいくことで、武雄は少しでも希望のあるまちになっていくし、住みやすい町になっていくんじゃないかと思います。それで、やはり市民にも希望、いろんな希望を与え、または生産性を高めることで、武雄市の経済自立度を高めることができるんじゃないかと思いますので、よろしくこの点のことをお含みおきください。

それでは、次に移ります。

2007高校総体についてであります。高校総体でのいろんな大会ですか、そういったものは、もうすべて――すべてといいますか、今準備等々が整っていていると思いますが、私が心配するのは、今回公衆便所の廃止、改修が考えられておりますが、その会場周辺、コース周辺、そういったところには、そういう支障を来さないのでしょうか。これは選手団だけでなく、そのほかに多くの高校生でもあり、その保護者、関係者、つまり一般の応援者が一緒に見えると思うんですよ。どのくらいの規模でお見えになるかというのはわかりませんが、そういう方たちのあわせて宿泊はどうなるのか。また、もちろんいろんなおもてなしの方法があると思うわけですが、そういうおもてなしもどういうことを考えておられるのか。

この際ですから、こんな大会はまたとないというか、何年待たんかわからんぐらいにないと思います。ぜひそういう方たちが、選手も一般の応援者もリピーターになってもらいたいと思いますので、そういうことをお考えいただいているとは思いますが、お尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

トイレの件についてのみ、ちょっと私の方からお答えしたいというふうに思います。これは、さきの議会で私の方で方針を出しましたので、その範囲で答えたいと思います。

どうでしょうか。汚かトイレのあるぎんた、あっても意味なかし、マイナス100点ですね。私は、あそこの梅林のあるところのあのトイレで、ある観光客の声を聞きました。もうこげんやったら来ん方がましやったて、せっかく梅ば見てきれいか思いばしよったら、あのトイレ見て、もう市長来んがよかったということを言われました。私も全く同感であります。あるよりない方がましなもの、これについては見直す、これが樋渡市政の基本的な根源であります。

その上で、今回、競技者、あるいは観光客の人たちがふえます。これについては、例えば、白岩、相撲場とか競技場とかあるですね。あそこは内外装の改修を進めたいというふうに思っております。

それと1点、私はぜひお願いしたいのは、沖縄で私が日本ハムファイターズのキャンプ地を誘致したときに、同じような問題が出たわけですね。そこで私がお願いしたのは、近くの民家の方々にトイレを貸してくださいというお願いをしました。もう間に合わんやったけんですね。だから、そういう意味で、それも立派なおもてなしと私は思うとですね。最初は反発がありました。さっき首をかしげられていましたけれども、反発がありました。しかし、それがおもてなしで物すごくきくわけですね。だから、やっぱりやってみるということで、そういうことが武雄において可能かどうかは別にしても、ぜひそういう気持ちを持つということは大事だというふうに私は思っております。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

お答えを申し上げます。

きのうも佐賀新聞の方にメダルの試作品ができたということで載っておりましたけれど、具体的に県の方、それから市町村の実行委員会の方で準備が進められておるところでございます。

おもてなしの部分につきましては、石橋議員のところでも御説明を申し上げましたけれど、特別の入浴券の作成、あるいは無料の自転車の用意、そういったことで準備をしているとこ

るでございます。

それから、配宿センターの方ですけれど、これは県がセンターをつくりまして、こちらの方で進めているところでございますけれど、現在のところ、7月25日から8月20日までの間、武雄市では5競技の監督、選手関係者が、期間中約1万8,000人の方が本市に宿泊をするということで、今取りまとめをしているようでございます。今後若干動いていくとは思いますが、現段階ではそういうふうな数字が上がっております。後々、輸送関係とか、それから交通対策、そういった面についても具体的に進めておりますが、先ほど議員の方から御質問がありましたトイレの件ですけれど、これは特にロード関係のことかと思っておりますけれど、約107キロのコースでございます。途中、仮設のトイレとか、あるいは公共施設を利用した休憩所、そういった施設を配置するということで検討を進めているところでございます。

あと、ロードにつきましては、立証員とか、それから医療関係、そういったものを設置せんといけませんので、今後具体的に進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

今、教育委員会の方から宿泊の状況について答弁がございましたけれども、選手、監督、役員等の宿泊につきましては、宿泊センターの方で配宿をされるということで、一般の応援者、それから観光客につきましては、各自で予約をしていただくということになります。

その中で、大会期間中は1日約1,000名前後の宿泊予定ということになっておりまして、武雄市の収容人員が約1,700名程度となりますので、700名につきましては、応援者の方とか観光の方が宿泊できるということになります。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

そういうふうな状況であるということであります。じゃ、そのトイレのことはいろいろ心配しなくてもよい。やはりいろんな地域住民の方たちが一緒になってやっていただきたいと思います。

私もこの中で一つだけ提言――提言じゃないけど、ロードのルートマップですね。それを出場高校が決まれば、ぜひその出場高校の保護者とか、関係者がたくさん見えるわけです。その中で、このロードでは観戦場所はここですよと、もちろん走る選手は一生懸命走るわけですが、観戦場所はここですよ、ここが一番きつところです、そういった地図といふかな、マップに表記したようなものを事前にお渡しすれば、駐車場とかいろんなことがわからないままにこっちに見えるわけです。ですから、そういうものもおもてなしの一つで

はないかなと思いますので、ぜひそういうふうにしていただきたいと思います。

続きまして、男女共同参画に行きます。

この参画につきましては、きのうも3番議員の方から御質問がございました。ただ、あれを聞いていた中で、私がちょっと思ったのが、その育児休業ですね、これはいろんなところの企業等々におきまして、その育児休業の制度は設けてあるけれども、なかなか男性がとらない。私一人が考えることかも知れませんが、そこに男女の給与差、そういう収入の差があって、なかなか男性がとれない家庭環境にあるのではないかなと。もちろん、休業補償は幾らかは来るわけですが、そういうことも一つの要因に、とれない要因になっているのではないかなというふうに感じました。

県ではまだどなたもいらっしゃらないですかね。いや、もちろん市では、男性はいらっしゃらないというのはきのう聞きました。何か県か国か、もちろん国になれば、それぞれなりのこともあるでしょうから、おとりになっている方もいらっしゃるようです。それを見ましても、やはりそこかなというふうな気がしました。

市長、そこら辺どういうふうに考えますか。

〔市長「そこら辺で、どこら辺ですか」〕

要するに、育児休業を男性がとりづらいという、それには、そういう給与差というものもあるんじゃないかなと僕は考えるから、市長はどういうふうに思われますかということをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

的確な質問をありがとうございます。

私はそれよりも、確かに聞きながら、それはそうかなと思いました。一般的な統計データは見えておりませんが、恐らく1割から2割差があると思います。それはそうかなと。それよりも増して、きのう山口裕子議員にお答えしましたが、それととりづらい雰囲気ですね、あの社会的慣習、この2点かなというふうに思っております。したがって、社会的慣習の方は、私の方からでも、いや、もうとってくださいと。とることがいいんだということは、積極的に声をかけていこうかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

そのとおりです。きのうそのことは答弁されていまして、それを除いてそういう面もあるんじゃないかなということでお尋ねをしました。

やはり市長等が、トップが積極的にそういう働きかけをしていただければいいんじゃない

かというふうに思います。

次に、学校問題です。

登下校の安心・安全についてであります。いろんな犯罪が起こっております。

ここで、武雄昭和区でつくりました、安全マップをつくっております。（資料を示す）このような安全マップをいろんな地区でもおつくりだとは思いますが、ぜひこういうものも、なかなか見やすい地図であります。ぜひこういうものもおつくりいただいて、子供たちの安全・安心を守っていただきたいと思いますし、また、子供たちの安全確保をしていくためには、いろんな取り組みが必要であります。

そこで、教育長、簡潔に、いろんな取り組みがあります。でもそういう中で、子供たち自身が一緒につくったマップ、それがやはり一番わかりやすいし、子供たち自身に理解できて、先ほどおっしゃいました、そういう判断力もつくんじゃないかなというふうに思います。

ぜひ困った人がいたら助けてあげなさいという一方で、声をかけられたら逃げなさいというのが大人であります。そういう大人の矛盾や誤解を招くような教育を避けるためにも、そういうものを取り組んでいただければというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

子供と一緒に地域の安全マップをつくらうということで、私が今知っておりますのは、昨年、橘町が町子連主催で1日ばかりでつくっていただきました。こういう取り組みが、やはり今議員おっしゃるように、大人と子供の信頼関係をつくると、こういうことで大事なことだろうと思います。

聞くとところによりますというと、武雄町の区長会長さんは、先頭に立って今のようなことで、全武雄町民の皆さん方につくらうということと呼びかけていただいているということも聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

恐らく最後の質問になるかと思いますので、市長にお尋ねします。

ネットで武雄に擬似旅行ということで、3D観光地デジタルがばい、がばいデジタルかなーをされて、研究会をつくり上げられているそうですが、ぜひそういう地図にも、先ほど言うような安全マップ、そういったものを組み入れて、また別の場面で見るとか、そういうものを組み入れたものがないのでしょうか。ぜひつくっていただきたいと思いますし、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○ 樋渡市長〔登壇〕

デジタルがばいの研究会については、今、そのインフラばつくろうとしよるわけですね。だから、そこに例えば、安全マップを載せるとかというのは、まず地区の皆さんたちがどういうふうにお考えかと。だから、先ほど昭和区の方が出ました。これは載せたいということであれば、それは100%ウエルカムというふうに考えております。

○ 議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○ 13番（前田法弘君）〔登壇〕

非常にデジタルな、ITには通である市長であります。ぜひそういったものも取り入れて、子供たちの安全・安心を守っていただきたいというふうに思います。

以上をもちまして、私の質問を終わります。